

2023年3月期 第2四半期
決算補足資料

株式会社イノベーション
(東証グロース : 3970)

INDEX
目次

1. 2023年3月期 2 Q 決算概要
2. オンラインメディア事業
3. ITソリューション事業
4. 金融プラットフォーム事業
5. トピックス
6. 業績予想・配当

1. 2023年3月期 2Q 決算概要

ITトレンドを中心としたオンラインメディア事業の着実な成長に加え、2021年3月期第4四半期から連結対象となった金融プラットフォーム事業が拡大フェーズにあることから、前年同期比で大幅な増収を達成。利益面では、CVC設立費用やコクリポ減損処理がワンタイムで発生したため前年同期比でマイナスになっているが、当初計画に折り込み済みで通期業績予想への影響はない。

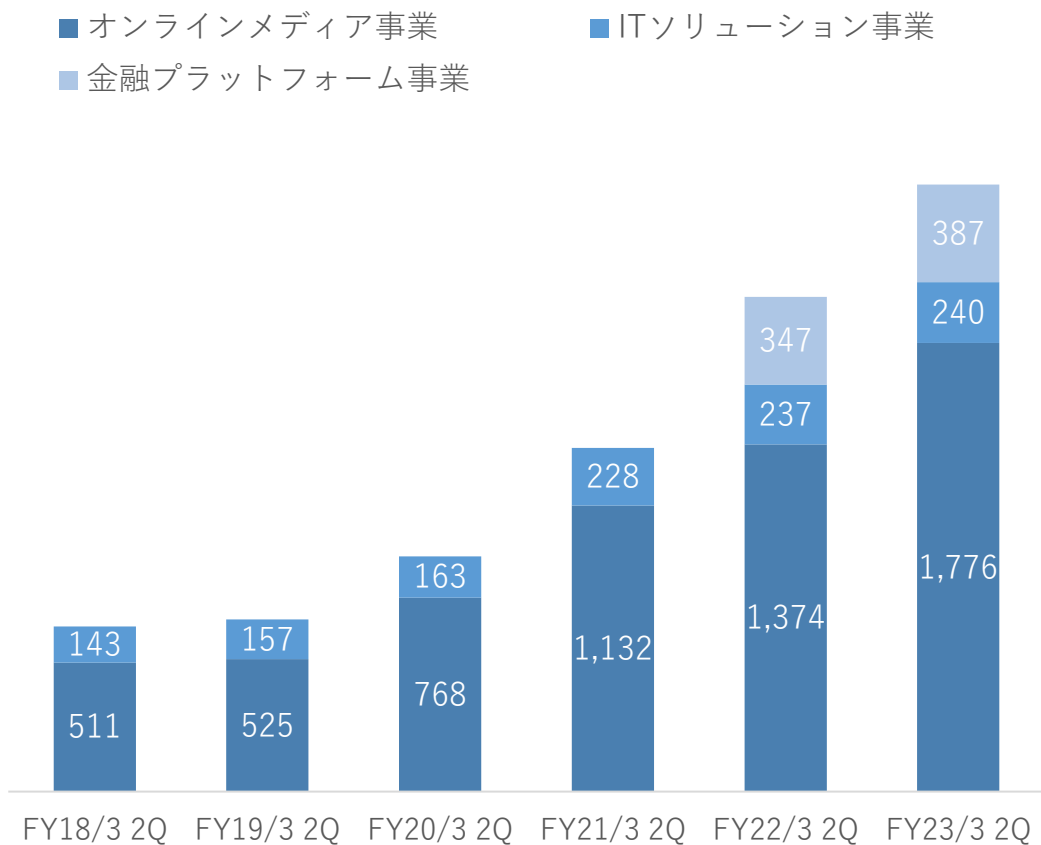
単位（百万円）

	FY22/3 2Q連結	FY23/3 2Q連結	前年同期増減	前年同期比（％）
売上高	1,961	2,407	+ 446	+ 22.7%
営業利益	300	276	△24	△8.2%
経常利益	300	277	△23	△7.7%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	147	138	△9	△6.5%

積極的なマーケティング投資によりオンラインメディア事業の拡大が加速、ITソリューション事業についてはコスト構造の見直しを推進し利益体質に。金融プラットフォーム事業については株式市況の悪化と人材採用投資を中心としたコスト増で利益面では苦戦するも拡大路線を維持。新設したVCファンド事業についてはCVC設立コストがワンタイムで発生し、結果として連結営業利益は前期比で減少。

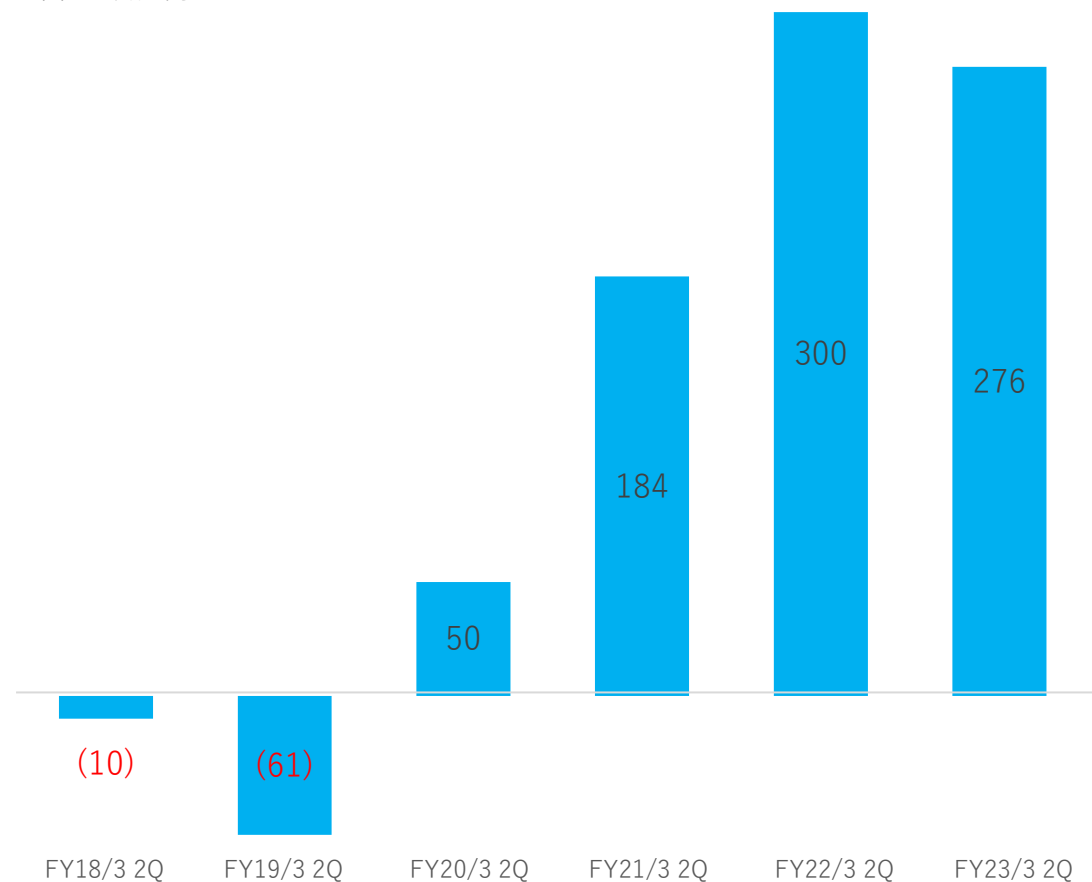
- セグメント別売上高

単位：百万円

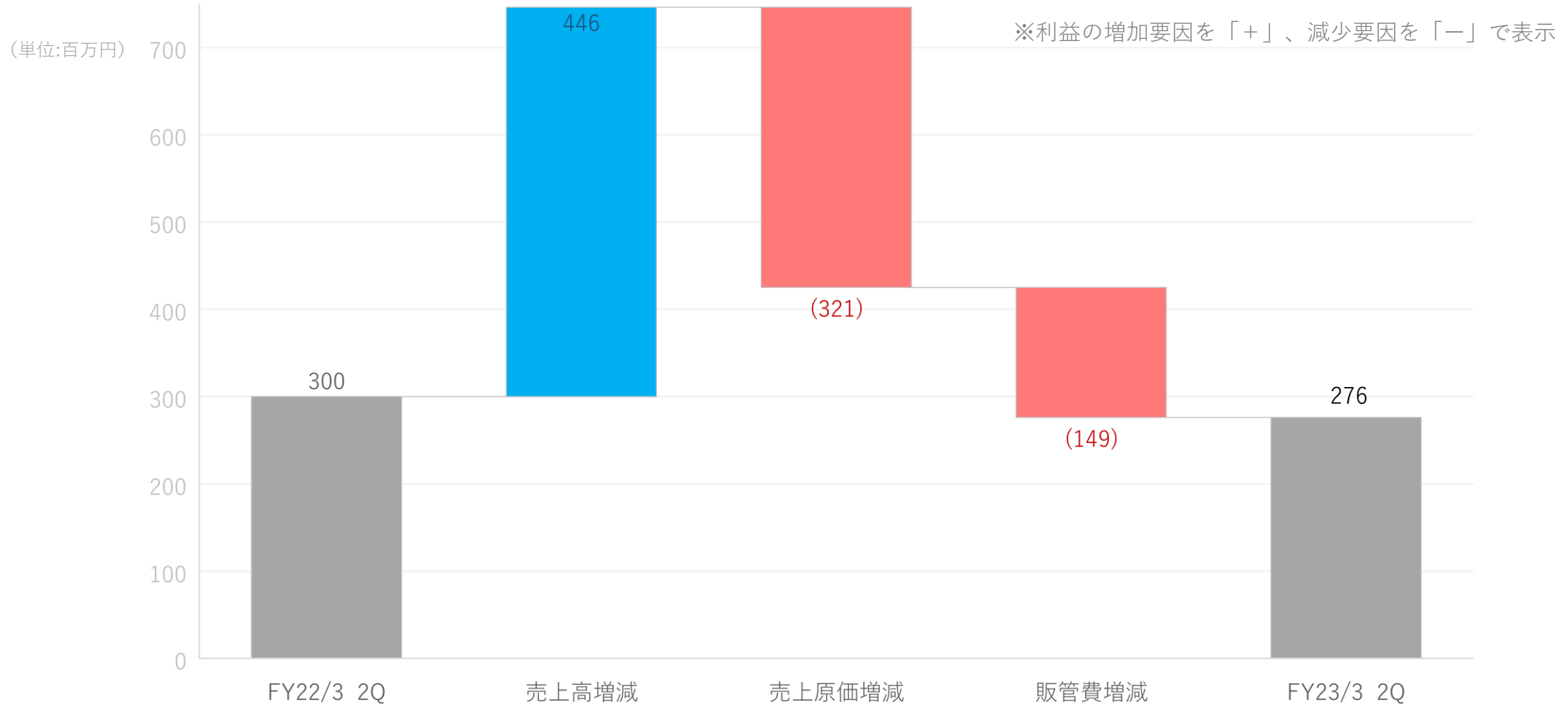


- 連結営業利益

単位：百万円



売上原価については、ITトレンドにおけるマーケティング投資の拡大、CVC設立コストが主な増加要因。
 販管費については、人員増強に伴う人件費および採用費、運営強化に伴う業務委託費等が主な増加要因。



調達資金を継続的にマーケティングおよびシステム開発を中心とする成長投資に投入することでソフトウェア資産等が増加する一方、既存事業、新規事業ともに収益が好調なことから現預金も増加。

単位（百万円）

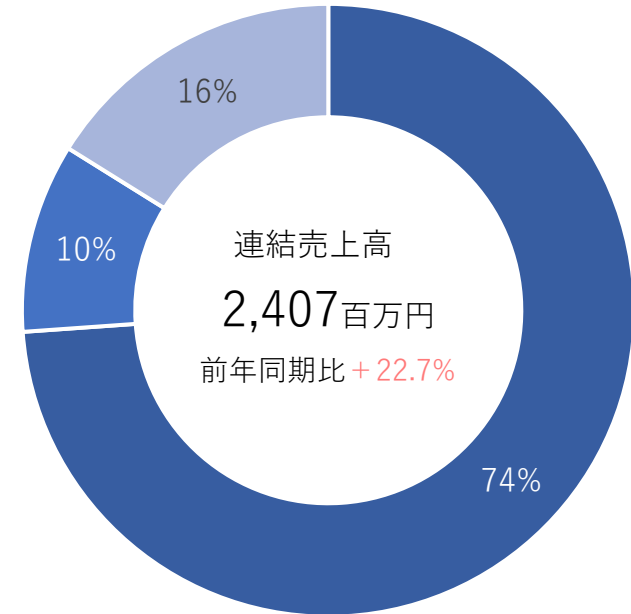
	FY22/3 2Q連結	FY23/3 2Q連結	増減
流動資産	2,671	3,069	14.9%増
固定資産	646	977	51.2%増
資産合計	3,318	4,047	22.0%増
流動負債	571	738	29.3%増
固定負債	17	22	27.7%増
負債合計	588	760	29.2%増
純資産合計	2,729	3,286	20.4%増
自己資本比率	80.9%	79.9%	-

事業概要

<p>オンラインメディア 事業</p>	<p> ITトレンド B2B商材のマッチングプラットフォーム</p> <p> bizplay B2B特化の動画プラットフォーム</p> <p> ITトレンド EXPO B2B特化のイベントプラットフォーム</p>
<p>ITソリューション 事業</p>	<p> List Finder MA マーケティング支援クラウド</p> <p> Sales Doc. 営業支援クラウド</p> <p> Cocripo オンラインセミナー支援クラウド</p>
<p>金融プラットフォーム 事業</p>	<p> Innovation IFA Consulting IFAサービス</p> <p> IMAP 事業承継M&Aサービス⁽¹⁾</p>

FY23/3 2Q累計 売上高構成

■ オンラインメディア ■ ITソリューション ■ 金融プラットフォーム



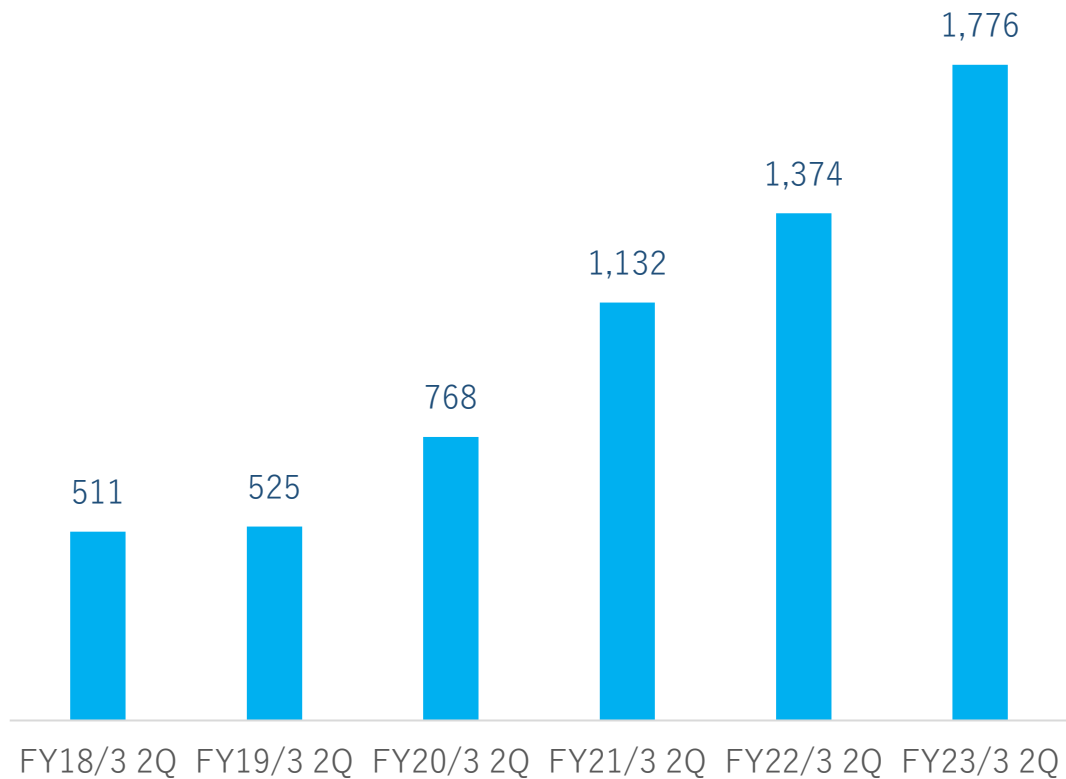
注: (1) 事業承継M&Aサービスについては非連結子会社で運営のため業績には折り込まれておりません。

2. オンラインメディア事業

前期のコロナ禍におけるDX化の加速に伴う急激なITトレンドの売上上昇が一段落した後、掲載製品数の拡大と口コミ機能の拡張に注力したことで資料請求数の更なる拡大に成功。

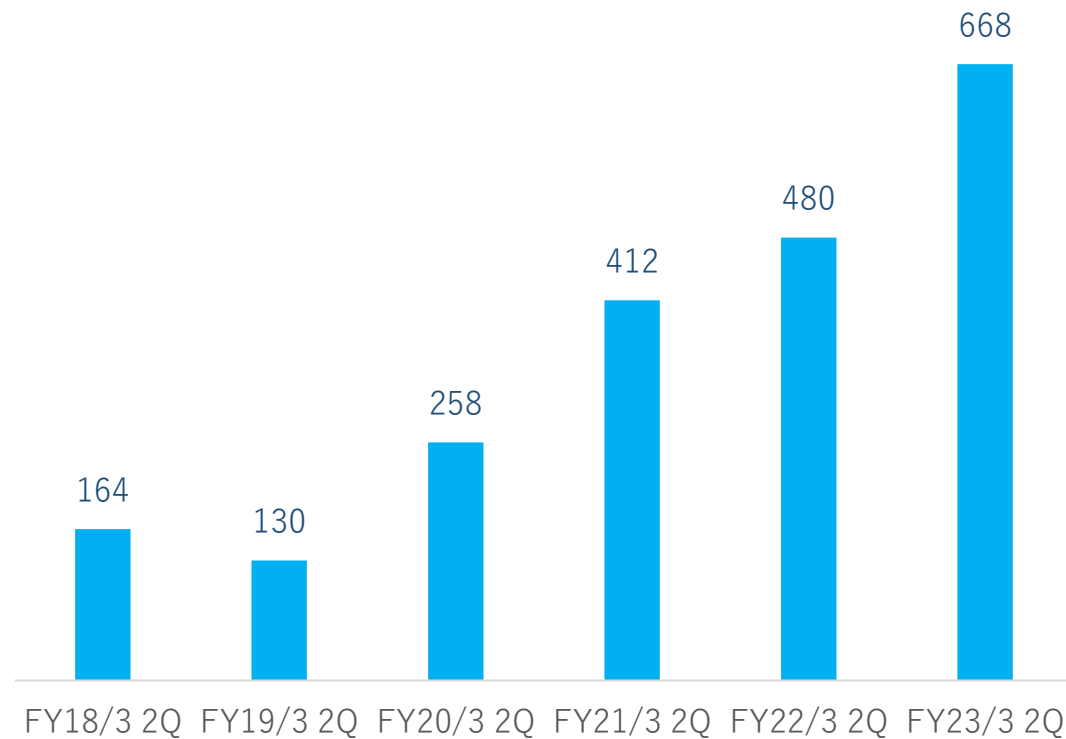
- オンラインメディア事業の売上高 推移

単位：百万円



- オンラインメディア事業のセグメント利益 推移

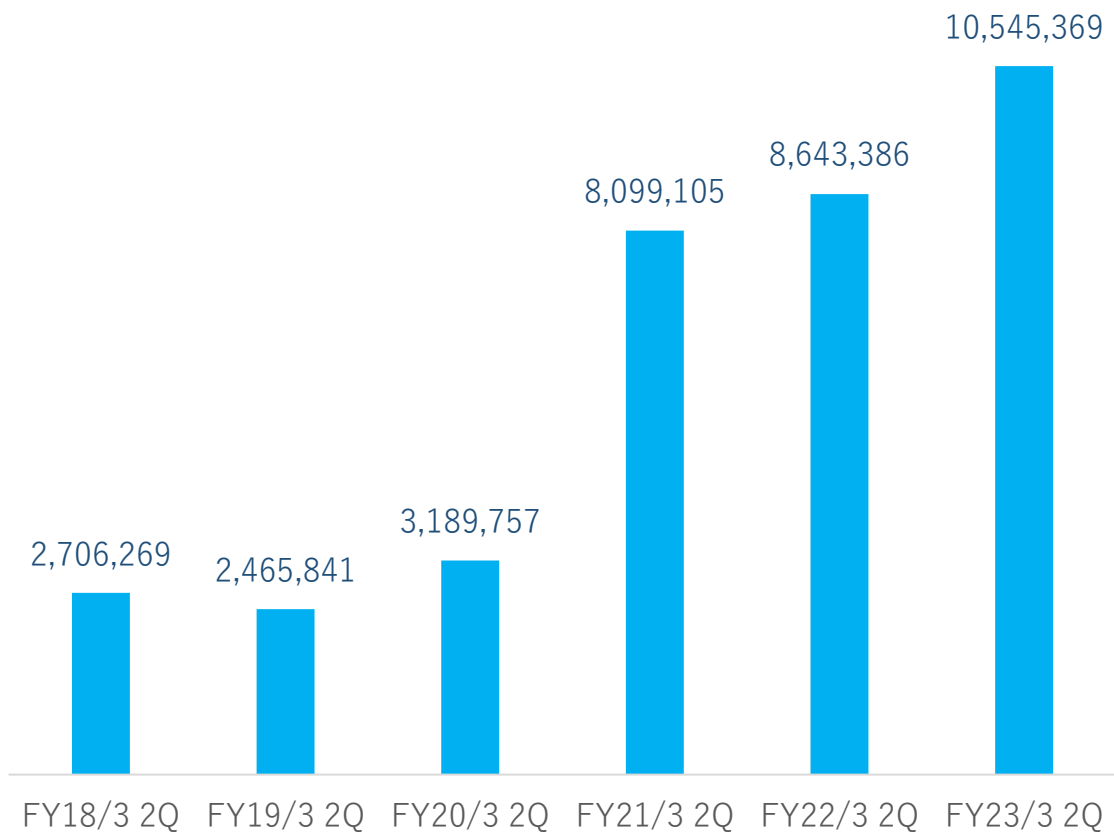
単位：百万円



前期のコロナ禍の影響による急激な来訪者数の増加が一段落した後、企業のDX化が本格的な拡大・浸透フェーズに入ったこと、ITトレンドのメディア価値が向上したことにより来訪者数が再度大きく伸長。

- 来訪者（ユーザー）数

単位：UU



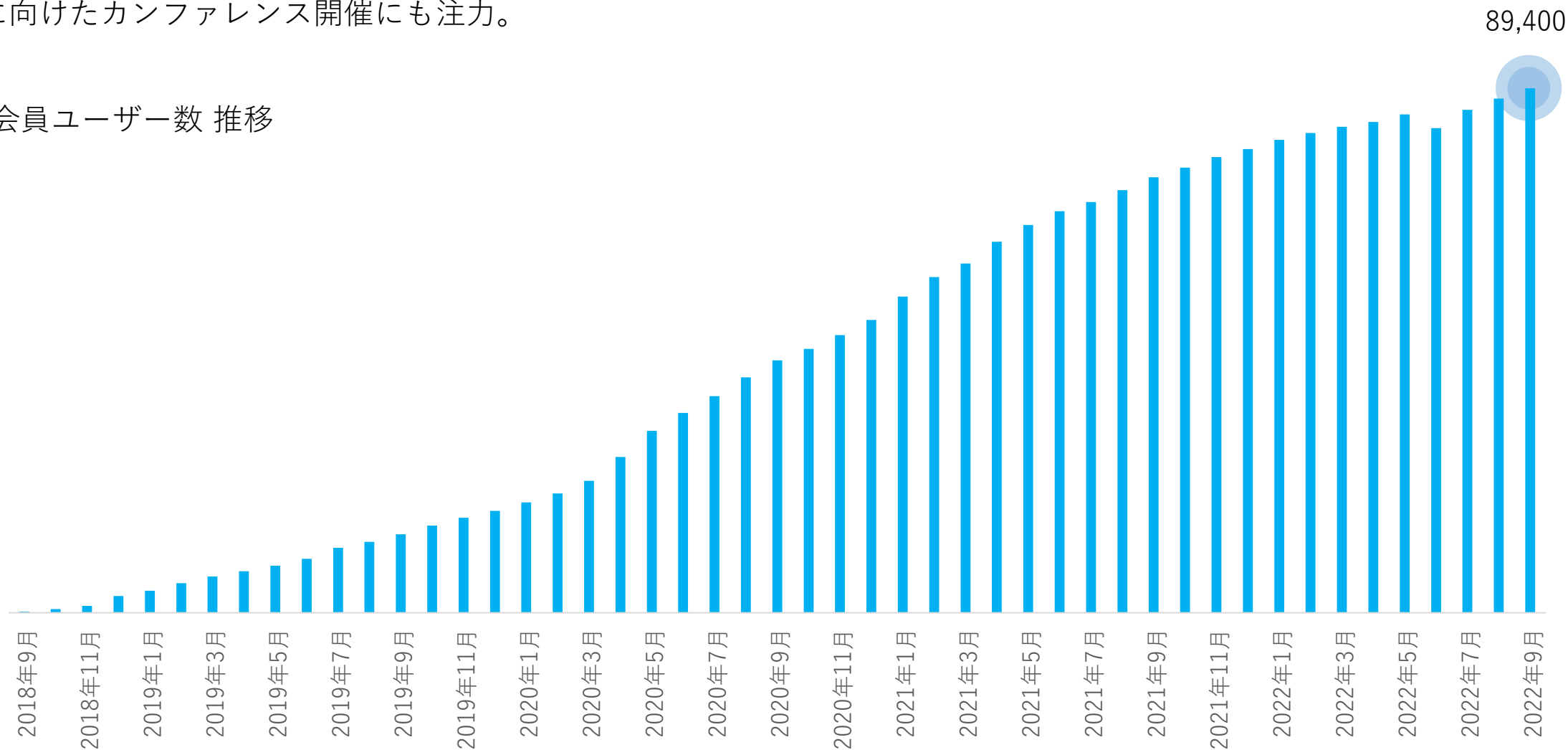
- マッチング数（売上）が増大した主なカテゴリー

(2023/3 1Q実績)

カテゴリー	2022/3 4Q 対比
AI-OCR	412%
帳票電子化	304%
PBX	155%
在庫管理	132%
電子カルテ	128%
EDI	121%
文書管理	117%
WEB請求書・クラウド請求書	115%

日経IDとの連携、他メディアとのアライアンス等の施策が奏功し、会員獲得が順調に推移。ビジネス書籍紹介動画「チラヨミ」の拡充等により引き続き会員数増大に向けた取り組みを強化しつつ、マネタイズに向けたカンファレンス開催にも注力。

- 会員ユーザー数 推移

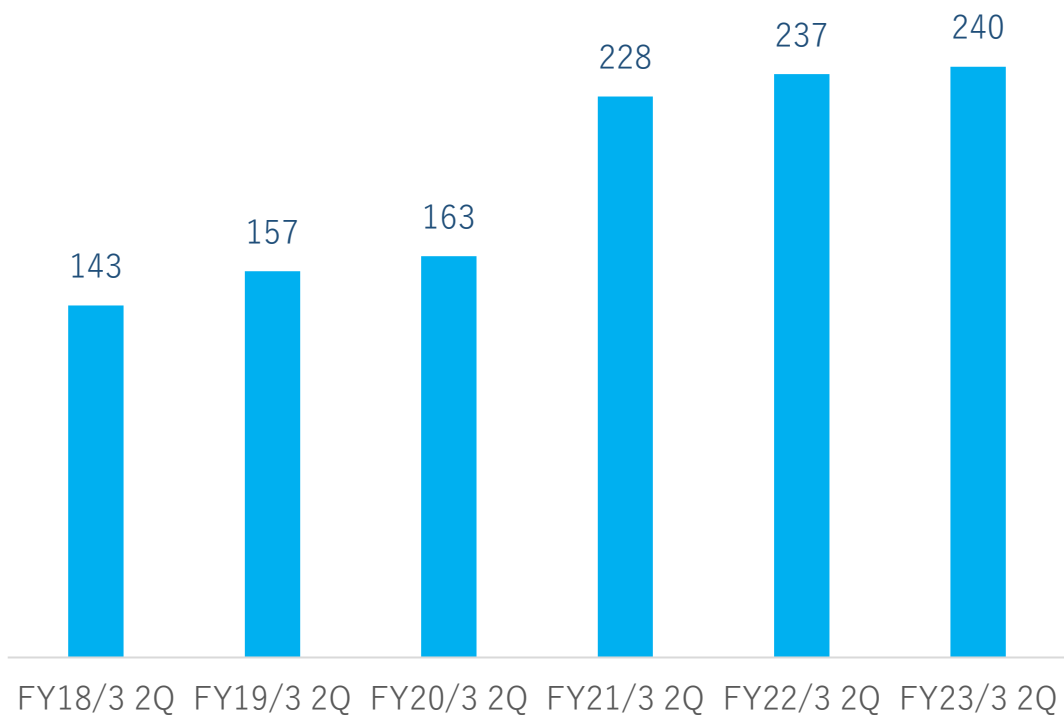


3. ITソリューション事業

List Finderは、戦略的に取り組んできた顧客単価改善とコスト最適化施策による収益力向上が進んでいる。
Cocripoは、競合ソリューションとの差別化が訴求しきれず、前期のコロナ禍の利用者数拡大路線から今期は大幅な減収減益に転じ、ソフトウェア資産の減損処理（52百万円）を実施。

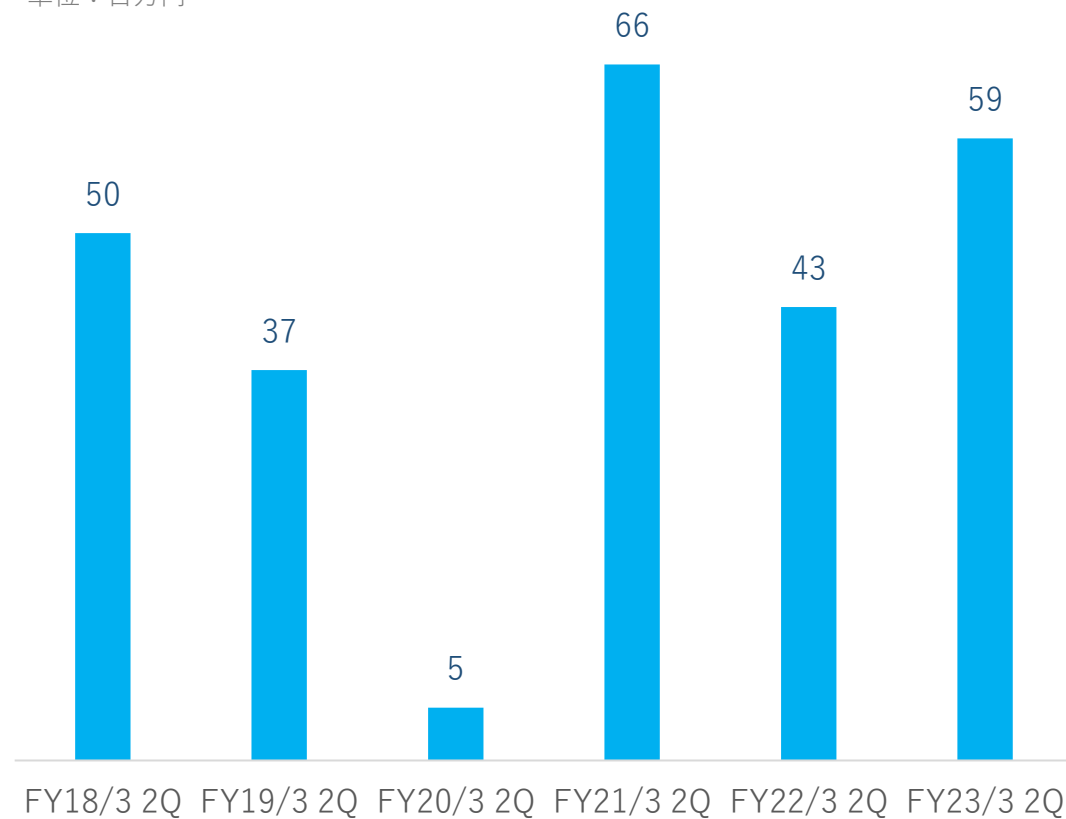
- ITソリューション事業の売上高 推移

単位：百万円

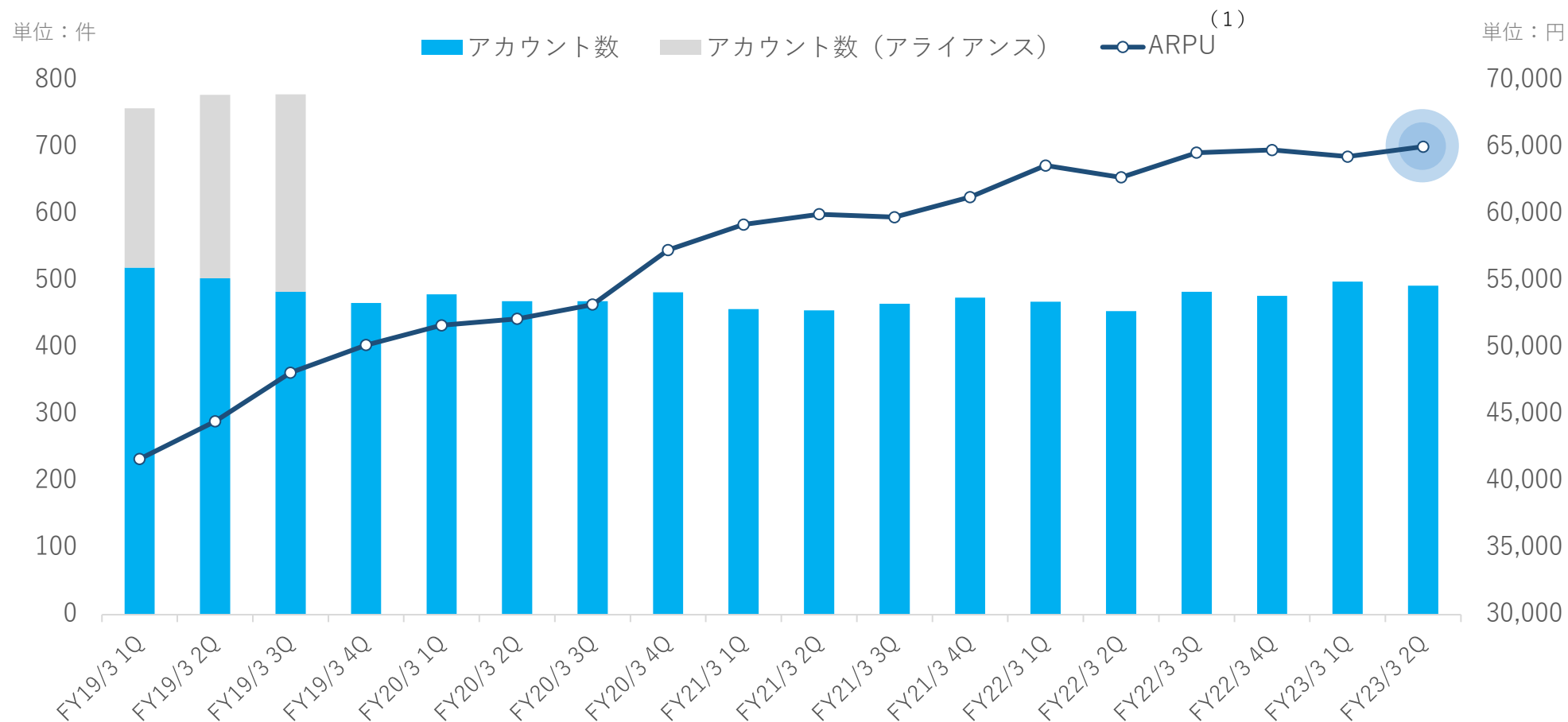


- ITソリューション事業のセグメント利益 推移

単位：百万円

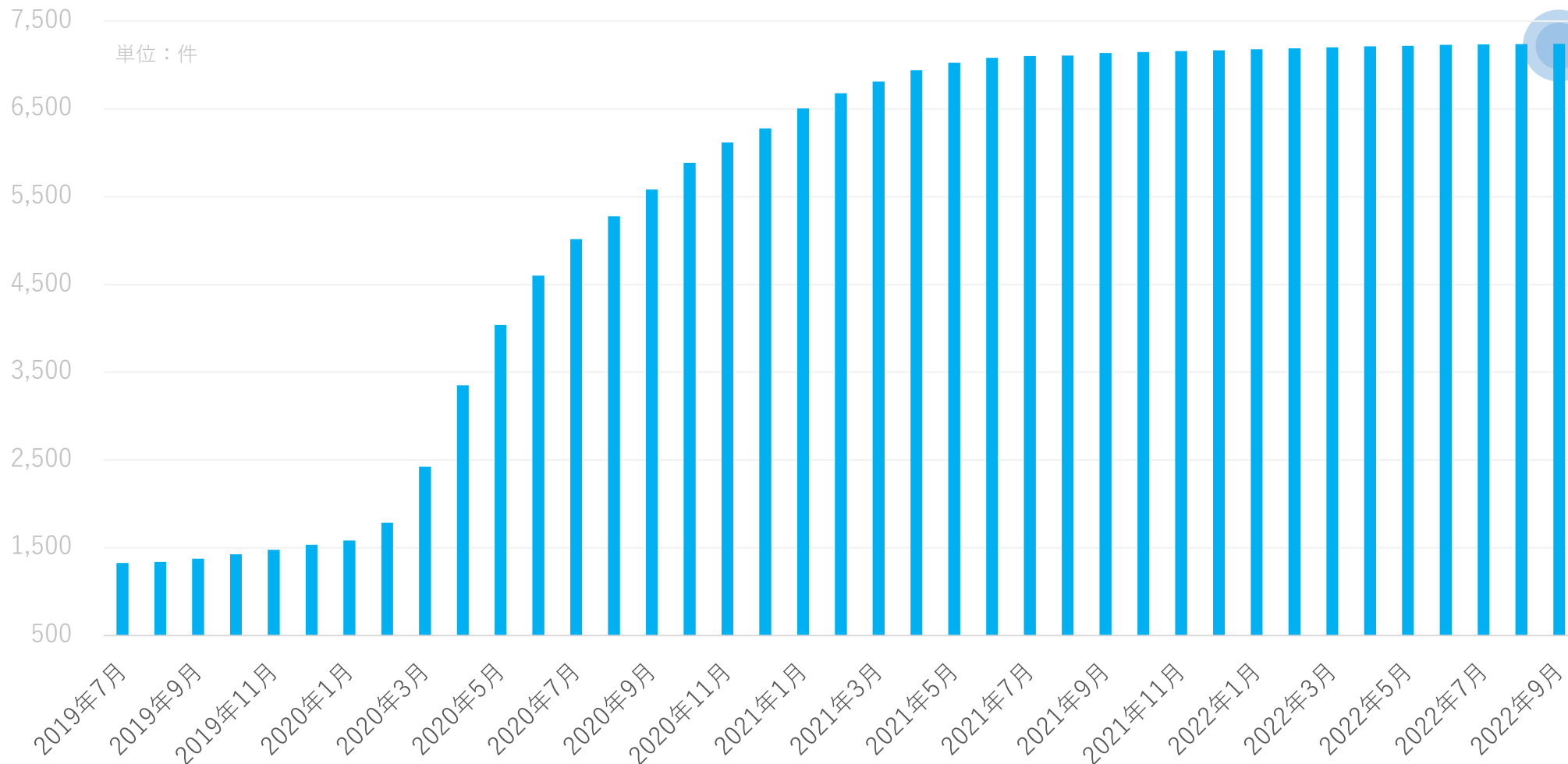


2020年3月期より、それまでのアカウント数拡大戦略から収益力強化に向けた顧客満足度最大化戦略に転換。アカウント数は横ばいが続いているものの顧客単価の上昇による売上、利益の拡大に成功。引き続き収益力の向上に努める。



注: (1) : List finderのAverage Revenue Per User。各四半期末のMRR (対象月末時点における継続課金企業に係る月額料金の合計) を同時点の有料課金ユーザー企業数で除して算出 (代理店契約を除く)。

前期のコロナ禍におけるリモートワーク特需が一段落する一方、競合が激化。WEB会議ツールとは一線を画すウェビナー特化ツールの強みを訴求しきれず、大幅な減収減益に転じたため、ソフトウェア資産の減損を計上。今後も事業は継続し、差別化施策としてオンデマンド配信機能等の追加実装やウェビナー開催支援を事業化する戦略に転換を進めている。

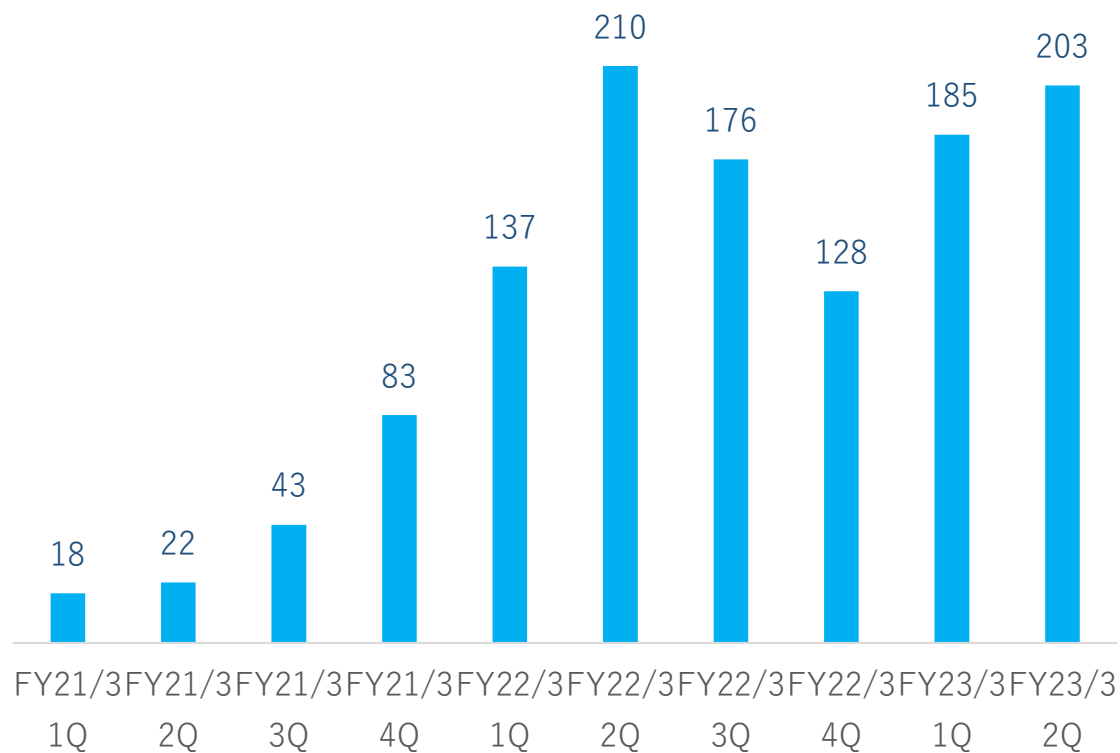


4. 金融プラットフォーム事業

前期4Qから引き続き株式市況の影響を受け苦戦が続いているが、採用および人材育成の強化による営業力向上等に努め、引き続き拡大路線を目指す。2Qについては1Q比で増収するも、採用コストおよび人件費の増加等により利益面では厳しい結果となった。

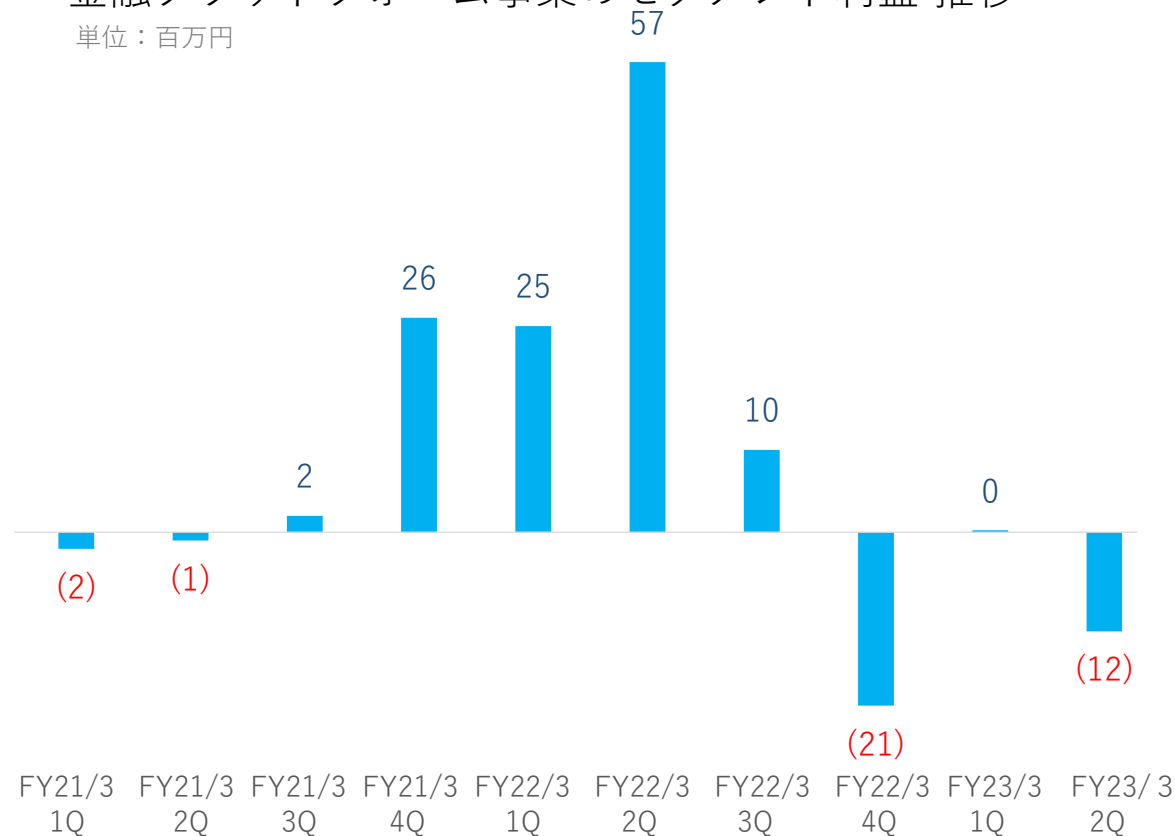
-金融プラットフォーム事業の売上高 推移⁽¹⁾

単位：百万円



-金融プラットフォーム事業のセグメント利益 推移⁽²⁾

単位：百万円



注: (1), (2) : FY21のQ毎の売上高、セグメント利益については参考値であり、会計上は4QにIFA子会社を連結子会社化したタイミングで通期分を一括計上。

| 5. トピックス

スタートアップへの投資・ハンズオン支援を行うCVC「INNOVATION HAYATE V Capital」を4月に立ち上げ。

IHVC概要

名称

INNOVATION HAYATE V Capital 投資事業有限責任組合

General Partner

ハヤテインベストメント株式会社

主なLimited Partner

株式会社イノベーション

設立時期

2022年4月6日

運用期間

10年（2年の延長あり）

運用総額

20億円程度

投資実績

MONO
Investment

/i//^ GIG INC.

静岡イノベーション奨学事業団

私たちは、静岡県の地域振興と発展に貢献する
人材育成を行なっています。



名 称	一般財団法人静岡イノベーション奨学事業団（略称：SIS）
所在地	東京都渋谷区渋谷3-10-13 TOKYU REIT 渋谷Rビル3F
WEBサイト	https://sis-shizuoka.org/
代表理事	富田 直人
設 立 者	株式会社イノベーション および 富田 直人
設立目的	この法人は、静岡県内の大学及び高等専門学校に通う学生に対する奨学金支給事業を行い、もって、将来社会に貢献し得る有用な人材を育成するとともに、静岡県の地域振興と発展に寄与することを目的とする。
事業内容	1. 奨学金の支給事業 2. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

6. 業績予想、配当

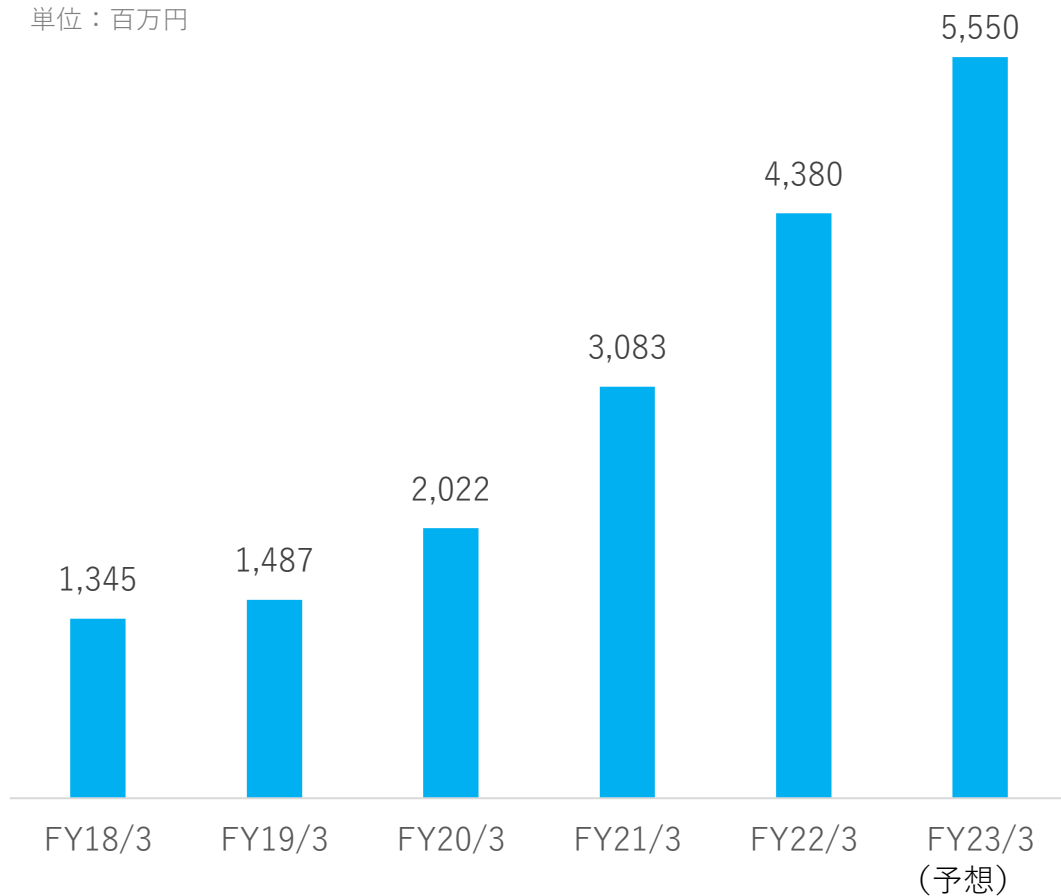
単位（百万円）

	FY22/3 実績	FY23/3 予想	対前期 増減	増減率
売上高	4,380	5,550	+ 1,169	+ 26.7%
営業利益	777	830	+ 52	+6.7%
経常利益	784	830	+ 45	+ 5.8%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	448	475	+ 26	+6.0%
配当（予想）	38.00円	39.00円	+1.00円	

既存事業の利益水準を高めながら、積極的な投資を行うことで当社グループの成長を加速。
引き続き金融プラットフォーム事業を中心とした新規事業開発、既存事業とのシナジー最大化を目指すM & A、幅広い事業領域にリーチするためのCVC投資に注力していく。

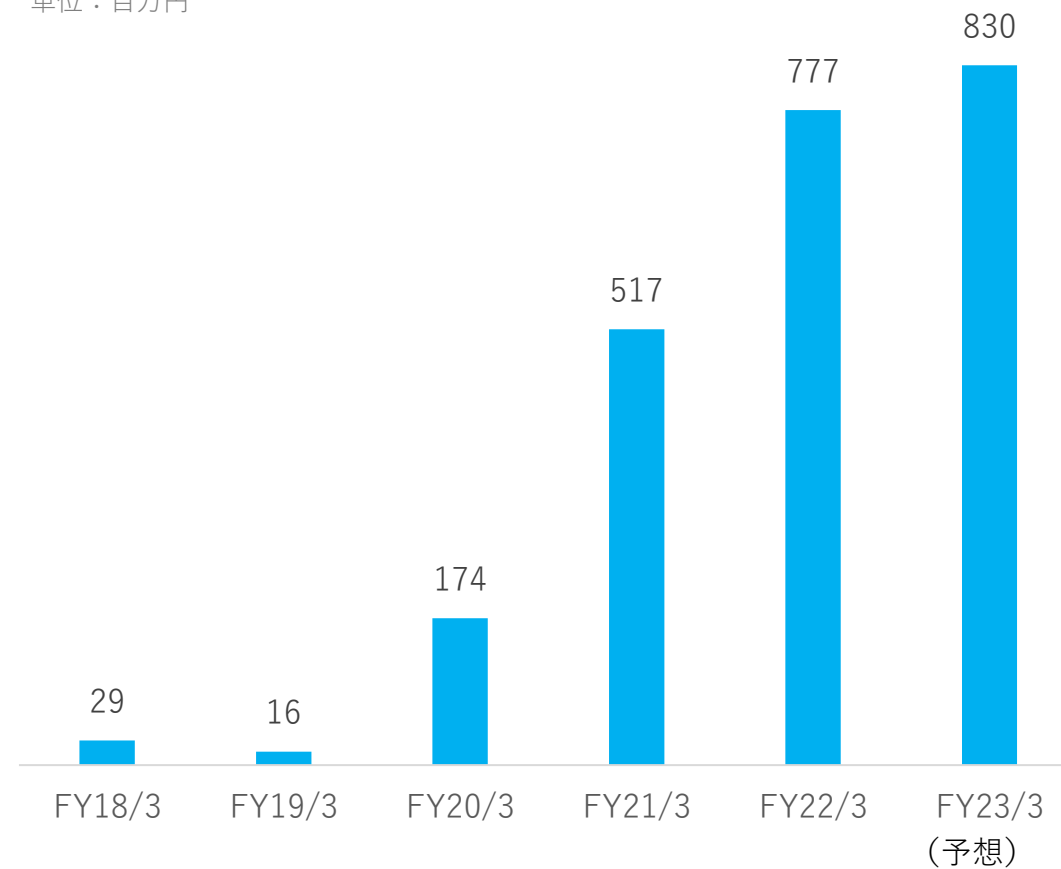
- 連結売上高

単位：百万円



- 営業利益

単位：百万円



会社名 株式会社イノベーション

所在地 東京都渋谷区渋谷3-10-13 TOKYU REIT 渋谷R ビル3F

代表者 富田 直人

従業員数 157名 ※2022年9月末時点連結従業員数

資本金 1,113,418千円 ※2022年9月末時点

子会社
 株式会社Innovation & Co.
 株式会社Innovation X Solutions
 株式会社Innovation IFA Consulting
 株式会社Innovation M&A Partners (非連結)

本資料につきましては、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください。業界等における記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させて頂くものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。